



連載Ⅱ
ホスピタリティーの
手触り 76

2013年の新登録世界遺産

旅行作家 山口 由美

レブカの世界遺産登録に日本人が尽力

この夏、日本の観光地に関するニュースで何といっても話題を集めたのは、世界遺産に登録された富士山だったのではないだろうか。六月のユネスコ委員会での決定の興奮も冷めやらぬまま迎えた七月一日の山開き。シーズンを通して、例年を上回る数の登山者が押し寄せ、夜明け前ご来光を目指して渋滞する登山者のライトで山頂付近に光の帯が出現する様子がしばしば報じられた。

富士山は、長年、自然遺産としての登録を目指してきたが、ごみ問題などの指摘があり、かなわなかった過去がある。今回は、文化遺産として、単なる「富士山」ではなく、「富士山―信仰の対象と芸術の源泉」として、念願の登録が実現したのである。

当初、対象から外すようにと勧告された「三保の松原」も含めての登録決定に、地元のみならず、日本中が沸いた。

だが、お祭りムード先行の報道に「このたびの世界遺産登録はあくまでも『条件付き』だということを忘れてはいけない」と七月十二日付の産経新聞「直球&曲球」で苦言を呈したのは登山家の野口健氏だった。

通常、世界遺産に登録されてから六年後にユネスコによるその後の管理状態や実情などのチェックが入るが、富士山に関しては異例の半分、

つまり三年後だという。

世界遺産に登録される前に入山規制や入山料制度などの受け入れ体制を明確に作るべきであったと彼は指摘する。実際、入山料は、今年、試験的に導入されたばかりだし、いわゆる弾丸登山や十分な準備もないまま登山する無謀な観光客などの問題は、安全面を危惧する以前に、日本の最高峰であり信仰の対象である霊峰富士の本来ある姿からは、程遠い状況と言えるだろう。野口氏は「富士山の世界遺産登録で浮かれている場合ではない。われわれはユネスコに試されていると受け取ったほうがいい。仮に何ら対策を取らないまま三年が経過すれば、次のビッグニュースは『世界危機遺産入り』または『世界遺産取り消し』となるだろう」と警告する。

一方、富士山の報道の陰で、全くと言っていいほど注目されなかったもうひとつの文化遺産の登録に、私は感慨を覚えていた。南太平洋の島国フィジーで初めての世界遺産「レブカの歴史的港湾都市」である。

南半球の島国のおそらくほとんどの日本人の知らない世界遺産。だが、その登録が実現した陰には、レブカに住むある日本人の尽力があった。五年前、レブカを訪れた時に出会ったその人、マサオ吉田さんの控えめな笑顔が思い出される。

フィジーがイギリスの植民地になった一八七四年、最初の首都が置か



世界遺産に登録されたレブカの町並み



ロイヤルホテルのロビー

れたのがオバラウ島のレブカである。だが、天然の良港でありながら背後に険しい山が迫るレブカは、都市として発展する余地がなかった。そのためわずか七年で、首都は現在のスバに移ってしまう。そして、南太平洋の小さな島には、一九世紀が封印されたように、古いヨーロッパ風の町並みが残ったのである。

吉田さんは、そのレブカの歴史を象徴する宿、ロイヤルホテルのオーナーだった。

なぜ、雪深い青森で育った彼はレブカにやってきたのか。その理由は、島に再び訪れたつかの間の繁栄にあった。一九六〇年代から七〇年代にかけて、物語は日本の高度経済成長時代とリンクする。そのころ日本では、



昭憲皇太后の御真影を抱く吉田さん

日ソのサケマス漁業交渉が暗礁に乗り上げていた。その時、打ち出されたのが、北のマスに代わって南のマグロの漁獲を増やす政策だった。そして、政府の肝いりでレブカに建設されたのが、日本と合弁のマグロ缶詰工場だったのである。

日本各地から多くの若い技術者がレブカに集結した。その一人に冷凍技術のエンジニアとして赴任した吉田さんがいた。

娯楽も少ない南の島。今も昔も一番のホテルだったロイヤルホテルでは、毎夜のようにパーティーが催された。当時、経営者には、美しい四人の娘たちがいた。吉田さんは、次女のニコレットさんと恋に落ちたのだ。運命に導かれるようにして、彼は、島に残る決心をしたのだという。

ロイヤルホテルは、レブカが最初に繁栄した時代からの歴史ある宿だ。『月と六ペンス』で知られるサマセット・モームも宿泊したという。もともとモームは、ロイヤルホテルでは何も作品を執筆することなく、レブカを去ってしまったというが。

歴史は長い、ロイヤルホテルには、それを記録した資料がほとんど残っていない。唯一の資料と呼べるものは、ニコレットさんの一族が経営に携わる以前、ホテルを創業したと伝えられるキャプテン・ロビンの遺品だ。その中から思いがけないものが見つかったと吉田さんは言う。それは、なんと明治天皇の皇后、昭憲皇太后の御真影だった。

なぜそれがロイヤルホテルにあったのか、すべては謎の中である。しかし、吉田さんという日本人が後継ぎとなり、こうして今、日本の富士山と同じタイミングでレブカが世界遺産になったことを思うと、遠い昔から決められていた運命を見るような、不思議な縁を感じるのである。

(やまべち ゆみ)